

京大リウマチ通信

第11号 京都大学医学部附属病院 リウマチセンター



2014.1.14 文責：伊藤



新年あけましておめでとうございます

みなさんはよい年を迎えられたでしょうか。今年も関節リウマチの治療に対して、一緒に取り組んでいきましょう。私たちも全力を尽くしたいと思いますので、今年もよろしく願いいたします。



天気が悪い日はリウマチが痛む！？

京大病院リウマチセンターと、京都大学医学研究科附属ゲノム医学センターの寺尾先生を中心とするグループが、関節リウマチの症状と気圧の関係を科学的に証明することに成功しました。今回は、この研究結果をご紹介します。

【研究成果の内容】

昔から、「天気が悪くなるとリウマチが痛む」とか「関節が痛むと、これから天気が悪くなるのがわかる」などの実感があることは、リウマチ患者さんの間ではよく知られていました。しかし、これが単なる印象に過ぎないのか、それとも、統計学的にみても気象とリウマチの痛みに関係があるのか、ということとはよくわかっていませんでした。

そこで、本研究では、京都大学医学部附属病院のKURAMA コホート(Kyoto University Rheumatoid Arthritis Management Alliance)というデータベースに登録されているのべ約2万件のリウマチに関する臨床データと、気象庁がホームページ (<http://www.jma.go.jp/jma/index/html>) で公開している気象データとの間に相関があるかを統計学的に検討しました。



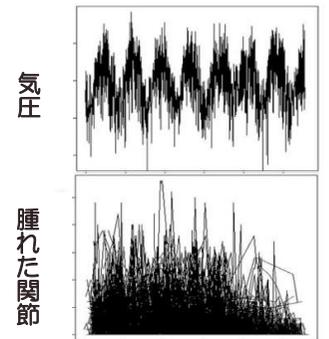
その結果、

1. リウマチ患者さんの関節の腫れや痛みの指標と、気象データのうちの「気圧」とが、統計学的に負に関係する（気圧が低いほど、関節リウマチの腫れや痛みの指標が悪化する）。
2. 「湿度」も相関するが、「気圧」が最もよく関係する。「気温」との間には関係がみられない。
3. 3日前の「気圧」とリウマチの症状が最もよく関係する。
4. 血液検査の炎症を表す数値との間には、関係がみられない。



ということがわかりました。

今回の研究では、リウマチ患者さんが現実感じている「天気が悪くなるとリウマチが悪化する」という現象が、統計学的にも事実として関節の腫れや痛みの指標と関係していることを明らかにしました。そして、「天気が悪化する」ことでリウマチの症状の悪化に関係している気象の要素は、「気温」でも「湿度」でもなく「気圧」であることを明らかにしました。



気圧と腫れた関節数の変動

なお、この研究では、「気圧」とリウマチの関節症状との間に関係があることを見出しましたが、その原因や理由についてはわかっていません。また「気圧」と炎症を表す数値との関係はみられません。したがって、気圧の変化がリウマチの病気の進行を大きく左右することはなさそうですが、リウマチ患者さんが実感として感じることに、統計学的な意味があることを示したユニークな研究です。

なお本研究は、国際科学誌「プロスワン」の電子版に発表されました。





関節リウマチの寛解になにが関係するかを示す

もう一つ研究成果をご紹介します。京大病院リウマチセンターと、免疫・膠原病内科、整形外科のグループが、関節リウマチにおいて寛解を達成するために、どのような要素が働いているかについて成果をまとめました。

【研究成果の内容】

関節リウマチの治療の治療目標が「寛解」（リウマチの病気が落ち着いて、病気の勢いがほとんど存在しないこと）にあることは、これまでのリウマチ通信でもご紹介してきました。

今回の研究では、患者さんに診察時につけていただいているリウマチの勢いの評価、日常生活の不自由をチェックした表を活用させていただきました。そして「寛解」を達成するためにどのような要素が重要であるかを検討するにあたり、医師が評価するリウマチの勢いと、患者さんが評価するリウマチの勢いとの間に違いがあることに注目しました。

その結果、

- 1、医師による病気の評価よりも、患者さんによる病気の評価のほうが高い傾向にある。
- 2、医師の評価は、炎症の状態を表す値とよく相関している。
- 3、患者さんの評価は、痛みや日常生活の障害の程度とよく相関している。
- 4、患者さんによる病気の評価が悪いために、「寛解」が達成されない場合がある。

ということがわかりました。

この研究結果から、治療によって炎症がおさまっていても、リウマチによる「痛み」や「日常生活の障害」が残っている場合は、「寛解」が達成できない場合があります。また医師は、患者さんの症状や日常生活の障害により気を配って、より早期から「寛解」を目指して治療に取り組む必要があると考えられます。

なお本研究は、Scandinavian Journal of Rheumatology というリウマチ学に関する国際英文誌に発表されました。また、昨年のリウマチ学会で発表した内容として、本邦の Medical Tribune 誌（2013年2月7日号）でも紹介されています。



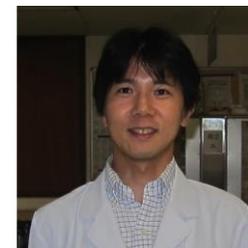
リウマチセンターからのお礼とお願い

今回の研究成果は、京大通院中の患者さんに毎回の受診時にご協力いただいている経過観察シートなどを基にしたもので、患者さんのご協力なしにはなし得なかったものです。本当にありがとうございました。今後もこのような患者さんの情報を基にした意義のある研究を続けていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



☆ご連絡☆

火曜日の午前中にリウマチセンターの外来を担当されている荻野先生が、2014年2月中旬で産休に入ります。代わって、石川正洋先生が火曜日の外来を担当します。リウマチ治療を専門とする整形外科医の先生です。どうぞよろしくお願いいたします。



石川 正洋 先生

| 診察室 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------|----|--------------------|----|----|----|
| 108号室 | 橋本 | 荻野(午前) 石川(2月より) | 藤井 | 橋本 | 藤井 |
| 109号室 | | 布留(午後) | 伊藤 | 伊藤 | 布留 |

リウマチに関するご質問、「リウマチ通信」や「リウマチ教室」で特集してほしいテーマがありましたら、外来主治医または外来秘書にお気軽にお申し出下さい。

お問い合わせは…



京都大学医学部附属病院 リウマチセンター

代表電話 075 (751) 3111 予約電話 075(751) 4891
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54



※過去の「リウマチ通信」や「リウマチ教室」の様子は、リウマチセンターホームページ <http://www.racenter.kuhp.kyoto-u.ac.jp> からダウンロードできます。